

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域の中で、その人らしく暮らし続けていけるサービスとして地域に開かれたホームを目指している。	○	地域密着型サービスの意義について再確認すると共に開所当初からの運営理念の見直しを考えている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時等、運営理念について話し合い、確認し、統一した方針でグループホームらしいケアができるように取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会、運営推進会開催時に活動状況等を報告し、理解を得る努力を行っている。	○	地域の集まりやイベント情報を収集し、参加頻度を多くしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が犬の散歩をしている時には、挨拶を交わしている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会等の地域活動には参加できていないが、自治会の方と、参加できる行事はないか話し合っている。年一度の系列施設での祭りに参加し、地元の方と交流を図っている。	○	地域の集まりやイベント情報を収集し、参加頻度を多くしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方から介護面等の相談を受けた際には、アドバイスを 行っている。	○	事業所での実践内容を踏まえ様々な研修等に参加し認知 症ケアの啓発に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をミーティングで報告し、改善に向けて具体 案の検討や実践につなげる為の努力をしている。	○	年1回の評価を計画的・継続的に取り組み事業所の質の 確保に活かしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	運営推進会では、事業所の活動状況や利用者様の状況等 報告し意見や助言をいただいている。検討事項等について も話し合い、サービス向上に努めている。	○	報告や情報交換にとどまらず、運営推進会議と評価を結 びつけ、質の確保、向上を図りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町村とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、市役所に現状報告を行い連携を深くし、協力関 係を築く取り組みをしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人が必要なケースがない。制度を理解して いる者が少ないのが現状。	○	権利擁護に関する制度の研修に参加し、理解を深めてい きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事 業所内で虐待が見過ごされることがないよう 注意を払い、防止に努めている	認知症研修・グループホーム研修等に参加し学ぶ機会を設 けている。職員間でも虐待予防について話し合い防止に努 めている。	○	高齢者虐待防止関連法の理解を図り、職員による虐待の 徹底防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に見学、面接を行い相談を受けており、その際に事業所のケアに関する考え方や取り組みを伝えている。契約時には、重要事項説明、契約説明を丁寧に行い、医療連携体制、重度化した場合に係る指針等についても説明し、同意を得るようにしている。</p>	○	<p>入居相談に関する説明等は管理者が行っており、今後は各ユニットリーダーや職員も行えるよう育成に努めたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、ご家族の意見や苦情に対し誠意を持って対処している。</p>	○	<p>職員に対し遠慮が窺える場合が多いように思われる。利用者様の言葉や態度から思いを察することができるよう日頃からの観察力をつけていきたい。職員以外の相談者を確保していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族来所時には、健康状態を報告し、日頃の暮らしぶり等は写真等を掲示している。金銭管理については、金銭出納帳を記入し、ご家族に確認いただきサインをいただいている。</p>	○	<p>面会が難しいご家族への配慮として、状態の報告や相談を手紙などで個々に合わせた対応を図りたいと思っている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、ご家族の意見や苦情に対し誠意を持って対処している。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング等で意見が出やすい環境づくりを心がけ、日頃からコミュニケーションが図れやすいようにしている。</p>	○	<p>意見や提案を聞く機会は設けているが反映できているか否か職員の声を大切にしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の状態やペースに合わせたローテーションを図れるようにしている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者様、ご家族との信頼関係を築くために馴染みの職員が対応することを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合は時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、職員が研修を計画的・継続的に受講できるよう配慮している。研修内容は全職員に報告し、共有しあってケア向上に活かしている。	○	職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会を確保していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や事例検討発表等に参加し、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。	○	交換研修の機会を設けたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に親睦の場をつくり気分転換が図れる機会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた相談、アドバイスをしている。向上心がもてるよう職場環境等配慮工夫している。	○	研修希望があれば勤務体制を調整し、研修を優先している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っている事等を良く聴いて十分理解し不安のない環境づくりをしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が困っている事、不安な事がある場合、その都度話を聴き十分理解した上で良いケアに活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人とご家族が必要としている支援を確認してケアに努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、ご家族と一緒に見学していただき、ご本人が納得できホームに馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様から昔の事等を教えてもらう事も多く、日常生活を通して、喜怒哀楽が共感できるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、情報交換を行い、話し合いの機会を持つよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時には、日頃の状態を報告し相談している。ご本人とご家族がより良い関係を築けるよう行事を計画している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会時には一緒に過ごせるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を職員が把握し、トラブルとならないよう注意しよいケアにつなげるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	健康上の問題で入院され退所等の場合、地域連携室を通して情報交換等したり、お見舞いに行き関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者様の話を傾聴し、言葉や表情等から希望を汲みとるよう注意している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の話を傾聴し、ご家族訪問時には、プライバシーへの配慮を忘れないように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活していく上で心身状態を良く把握し、状態に合わせたケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族から希望を聞き反映させるよう、アセスメントを含め職員間で意見交換を行い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画をご本人の状況や状態の変化に応じ見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃のケアの実践結果や身体状況、暮らしの様子等気づいた事を個別記録に記入しており介護計画の見直しをしている。	○	独自の記録様式を作成しているが、改善点等ないか見直しを考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし利用者様にとって負担となる受診や入院の回避等を図っている。通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や消防に働きかけており、避難訓練は定期的に実施し救命講習を受け緊急時の対応に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の状況や希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。介護保険以外のサービスを使えていないのが現状。	○	地域の他のケアマネジャーとの関係づくりを積極的に行いたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからの入居に関する照会等で関わりを深めている。	○	情報交換や協力関係等積極的に関わっていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列病院医師をかかりつけ医としているが、ご家族には入居時に夜間、緊急時の対応が受けられる等の旨を説明し、理解、納得、了承を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院には、内科の他、脳外科、精神科があり、気軽に相談し指示助言をもらっている。利用者様の状態により定期的に受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関より、1回/日(5回/週)看護師の訪問があり、日常の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、介護要約を作成し情報を提供している。また、病院関係者(MSW等)、ご家族と情報交換し、回復状態等速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応にかかる指針を作成し意思確認をしている。その際、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。	○	終末期を受け入れることが今後考えられる。その際に職員がどこまで支援できるか、どのように支援していくかを話し合っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人、ご家族の意向を重度化した場合の対応にかかる指針にて確認している。日頃より、協力医療機関、看護師に体調管理を依頼しており、体調、状態に応じ対応してもらえるよう連携を図っている。	○	終末期を受け入れることが今後考えられる。その際に職員がどこまで支援できるか、どのように支援していくかを話し合っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ移られた場合、アセスメント、ケアプランを手渡すと共に、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点等の情報交換を行っている。その後の連携を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の誇りとプライバシーを損なわないよう声かけや対応に気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中でご本人の思いや希望を汲み取り、自分で決め納得できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活ペースを大切にし、体調や精神状態に応じて支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣時、ご本人の希望を聞いて着替えをしている。理美容は訪問を依頼している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と同じテーブルに着き一緒に食事をしている。介助が必要な方には食事介助を行っている。	○ 好みに応じた外食の機会を設けたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ購入時は、利用者様の好みを聞き購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄時間やパターンを把握しトイレ誘導をしている。排泄の失敗時等は、利用者様への気遣いを忘れずサポートしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方から職員数が少なく安全確保が難しい為、午後からの入浴としている。一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。	○	就寝前の入浴希望はみられないが、今後対応できるよう話し合いたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中の生活リズムをつくり、夜間安眠できるよう生活習慣を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った役割活動やレクリエーション等に参加してもらっている。	○	趣味活動を多く取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力、理解を得て少額のお金を持っている方に対しては管理支援をしている。ホームで管理している方には、金銭出納帳を家人に明示しサインをいただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により買い物・ドライブ・散歩等支援しています。	○	自ら外出を希望をされる方は決まっているが、希望を言葉に表さない、表せない方への支援を大切に行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様の希望により外出時には、ご家族の協力を得て外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、電話したい時はなるべく電話できるようサポートしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族等の訪問時、利用者様とゆっくり過ごせるよう居室にて過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解しケアを提供している。散歩(徘徊)をされる方には、見守りし転倒しないように注意している。	○	介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為について全職員が理解し、身体面の拘束だけでなく精神的拘束についても考えケア提供を行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量が多い国道に面している為安全に考慮し、玄関はオートロックであるが、外出の希望があれば何時でも職員が開錠するようにしており、ご家族にも十分に説明し了承を得ている。居室においては施錠することなく生活をしてもらっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して職員は利用者と同じ空間で過ごし全員の状況を把握するよう努めている。夜間は適宜、巡視している。	○	利用者様と同じ空間で記録等の事務業務を行っており、ご家族面会時等は、記録類が目につかないようプライバシーに配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせて注意が必要な物品を把握し管理方法を職員間で話し合い支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に火災訓練を実施。急な対応に対しての知識を学び状況に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	分析方法として系列病院で使用しているSHEL分析表を用いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に介護職の会(勉強会)に参加している。	○	介護職員だけのケア提供の為、医療面に関して職員にも不安がある。緊急時、全職員が対応できるよう日頃からのシミュレーションをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者様と共に避難訓練を行い、消防署の協力を得て避難経路を確認、消火訓練を実施している。	○	避難訓練時だけでなく、日頃からの心構えが必要だと考える。災害時を想定した連絡等のシミュレーションをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的にカンファレンスを開催し一人ひとりに起こり得るリスクについて話し合っている。その都度ご家族に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェックし、早期に体調の変化に気付くよう注意している。職員間での情報を共有し状況に応じて医療受診するよう対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の目的等、職員は理解し担当医との連携を図り症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、適度な運動や水分補給、食べ物等に気をつけるよう援助している。状態に応じ下剤の使用を医師に相談している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きをしてもらっている。歯磨きができない人には、介助したり、うがいをしてもらい、一人ひとりに応じた対応を心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし毎日記録している。糖尿病等、疾病に応じて食事コントロールを医師と相談しながら行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し全職員で学習し、予防・対策に努めている。感染症に関して情報収集し取り決めをつくり、早期発見、早期対応に努めている。利用者様、ご家族に同意頂き職員共に、インフルエンザ予防接種を受けている。昨年、嘔吐・下痢をする方は一人もなかった。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は、使用毎に漂白、除菌し清潔に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターに花を植えて家庭的な雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が集うホールについては、毎月壁画を変え季節感を出す工夫をしている。利用者様にも参加してもらい生活感を味わってもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにはソファがあり、一人で過ごせる時間があり、仲の良い利用者様同士で過ごせるスペースがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やカバー等、それぞれ利用者様の好みの物を使用し快適に過ごせるよう支援している。お気に入りの椅子や写真や衣装ケース等を置き心地よく過ごせるよう工夫している。	○	認知症と馴染みの物に関する説明を行う等アプローチに努めたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中居室等の換気をこまめに行い、トイレには消臭剤を置いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状態に合わせて廊下に手すりを設置し、浴室、トイレ等居住環境が適しているか安全確保に注意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様一人ひとりのできること等を活かし自立して暮らせるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外にベンチを設置し、利用者様が日向ぼっこや談話ができるようにしている。また、プランターには季節の花を植えている。洗濯物を干したりと活動できるようにしている。	○	花だけでなく収穫できる物を育て季節感が味わえ活動意欲が増す工夫をしたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

鴨島病院と医療連携がとれており、毎日看護師が訪問してくれ、利用者の体調管理に気をつけています。地域との交流として鴨島病院での長寿園祭りや季節の行事としてクリスマス会等に家族の方に参加してもらい交流を図っています。